



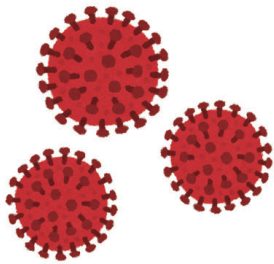
# 乳幼児（生後6か月から4歳）向けの 新型コロナウイルスについて

## Topics

乳幼児（生後6か月から4歳）向けの新型コロナウイルスが当院でも受けられるようになります。

目黒区では、乳幼児向け新型コロナウイルスの接種が集団接種会場ならびに一部の医療機関で2022年10月下旬から開始されました。

当院では5歳から11歳のお子様へのワクチン接種を行ってきましたが、2023年4月からの個別接種拡大を機に生後6か月から4歳のお子様にも接種を行うことにいたしました。



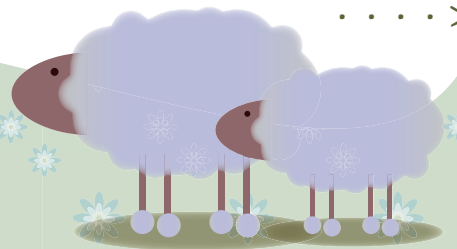
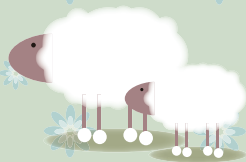
オミクロン株の出現以降、感染者の増加に伴い乳幼児においても重症例が確認され、基礎疾患のない乳幼児でも死亡する例が報告されています。また生後6か月から4歳の小児へのワクチン接種については、中和抗体価の上昇や発症予防効果などのメリットが副反応などのデメリットより大きいことが確認され、接種が勧められてきています。

新型コロナウイルス感染症は、現在落ち着きを見せ、2023年5月8日には感染症法上の位置付けが、2類相当から季節性インフルエンザなどと同じ5類に移行することになっています。感染症対策は新たなフェーズに入るわけですが、ウイルス自体が消えて無くなったわけではありません。

しかも乳幼児のワクチン接種率は、2023年4月現在3~4%と他の年代に比べかなり低い状況です。お子様を新型コロナウイルスから守るにはワクチン接種が必要です。新型コロナウイルスを自己負担なしで接種できる期間が2024年3月31日までに延長されました。

新型コロナウイルスについてよく知って、お子様へのワクチン接種をこの機会にぜひご検討ください。

裏面に続く  
.....>






# 乳幼児（生後6か月から4歳）向けの 新型コロナウイルスワクチンについて



## 乳幼児（6か月から4歳）の新型コロナウイルスワクチン接種

対象	東京都内に住民票がある6か月から4歳までのかた (6か月になる前日から、5歳になる誕生日の2日前まで)
使用するワクチン	乳幼児用のファイザー社ワクチン（従来型） 1回0.2mlを筋肉内に注射します（1回の接種する有効成分の量は大人のワクチンの10分の1、5歳から11歳用のワクチンの3分の1です）
接種間隔	1回目接種後、通常3週間あけて2回目を受け、2回目接種後、8週間あけて3回目を受けます。 合計3回接種して、初回接種が完了します。 
ワクチンの効果	乳幼児向けのオミクロン株対応ワクチンは、日本でまだ承認されていないため、接種することはできませんが、従来型のワクチンによる初回接種（3回）によってオミクロン流行下で73.2%の発症予防効果が確認されています。
ワクチンの安全性	接種後の副反応の頻度は、偽りの薬（プラセボ）を投与したグループとあまり変わらず、ワクチンの影響は軽微なものでした。3回目接種後で38度以上の発熱は生後6か月から1歳で6.8%（プラセボは5.9%）、2～4歳は5.1%（同4.2%）で大人より低い傾向にありました。
他のワクチンとの同時接種について	インフルエンザワクチン以外のワクチンは、新型コロナワクチンと同時に接種できず、互いに片方のワクチンを受けてから2週間以上間隔をあけて接種することになります。

自由が丘メディカルプラザ 小児科

2023年4月5日  
日本小児科学会認定専門医  
日本感染症学会専門医

齋藤 義弘

